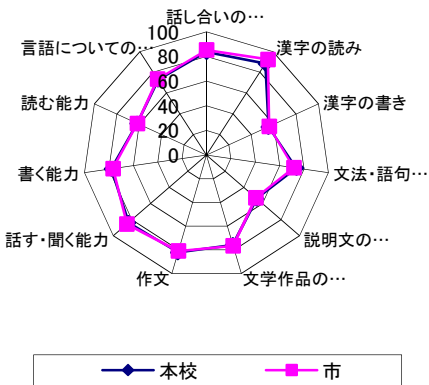


宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	83.7	85.4
	漢字の読み	88.4	92.4
	漢字の書き	55.2	56.0
	文法・語句に関する知識	73.8	71.7
	説明文の内容の読み取り	53.8	53.0
	文学作品の内容の読み取り	75.9	76.7
	作文	82.3	81.1
観点別	話す・聞く能力	83.7	85.4
	書く能力	77.9	76.6
	読む能力	61.8	61.6
	言語についての知識・理解・技能	72.7	73.5



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	市平均よりやや低い。特に、話の論理的な構成や展開を考えて、聞き取ることにおける正答率が低い。話し合いが目的に沿って効果的に展開するように、聞き取ることや、自分の考えを話すのにふさわしい話題を選ぶことは、市や全国の平均を上回っている。	話の論理的な構成や展開を考えて、聞き取る能力を育てることに重点を置く。自分が論理的な構成や展開を考えて、考えたり、書いたり、話したりすることによって、話の論理的な構成や展開を考えて聞き取る能力を育てる。
漢字	漢字の読み書き各4問計8問中間中、市の平均を上回ったものは、読みでは1問、書きでは2問であった。全国平均をも上回ったのは、読み書き各1問であった。正答率が、「救済」を書く問題は14, 0%、「おどろ(驚)」を読む問題では、98, 8%と差が開いた。これは、市や全国も同じ傾向であった。	平均的に漢字の読み書きの知識が不足している。特に書くことが全国的に非常にできない。既習の漢字を含めて身に付けさせていく。学校園の学習力向上部会も活用する。
文法・語句に関する知識	単語の分類や類義語についての理解は、市の平均を下回り、動詞の活用の種類や敬語についての理解は、市と全国の平均を上回った。	単語の分類や類義語をはじめ、繰り返し練習問題を解くなど復習し、身に付けるように指導する。特に定着しにくいものについては、取り立てて理解させる。
説明文の内容の読み取り	文章の展開に即して内容や要旨をとらえる問題では、市の平均を下回ったが全国の平均を上回った。書き手の論理の展開の仕方を的確に理解する問題では、正答率が、29, 1～91, 9%と分かれた。これは、市も全国も同じ傾向である。	文学作品の内容の読み取りに比しても、全体的に正答率が低いので、論理的に理解する力をさまざまな場面において育てる。
文学作品の内容の読み取り	表現の仕方や文章の特徴に注意して読む問題の正答率は、市と全国の平均を上回った。文脈の中での語句の効果的な使い方について理解する力は、市と全国を下回った。	説明文の内容の読み取りよりは、読む能力が高いが、市の平均を下回っている。読書や問題練習の機会を増やし、読む力を身に付けさせたい。
作文	ほぼ市と全国の平均を上回り、8割前後の正答率であった。。	さまざまな文章を書く機会を増やすとともに、書くことをいとわない心を育てたい。